

# ChatterboxIII

—変化を伴い持続する4人—

2022年8月29日(月)～9月3日(土)

飯沼  
知寿子

Chizu Hinuma

ギャラリーー檜  
B

斎藤  
英子

Eiko Saito

ギャラリーー檜  
C

釘町  
一恵

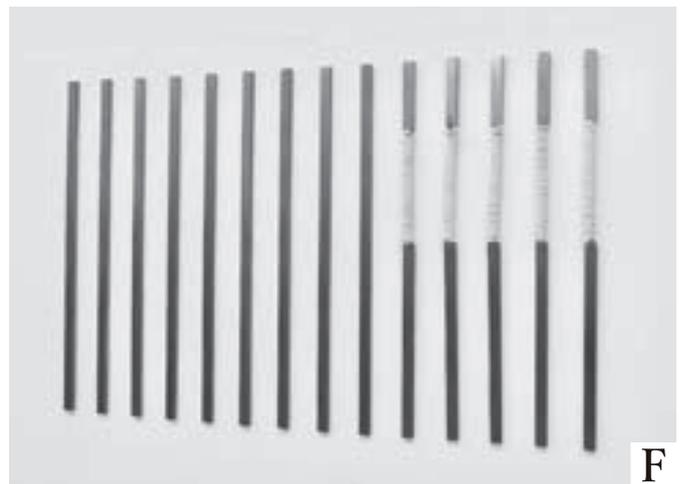
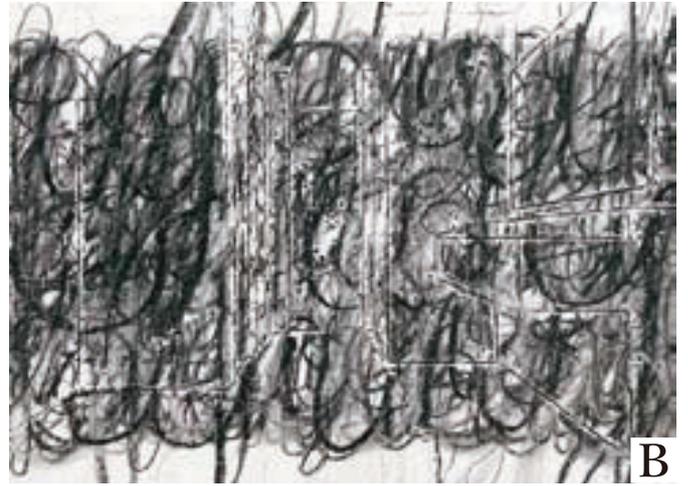
Kazue Kujimachi

ギャラリーー檜  
e

間々田  
佳

Kei Mamada

ギャラリーー檜  
F



**飯沼** 2019年春、東京大学入学式での上野千鶴子<sup>1</sup>さんの祝辞は、大きな話題となりました。社会の性差別、不正という現実を突きつけ、フェミニズム<sup>2</sup>は弱者が弱者のまま尊重される為の思想であることを説きました。美術社会の現実も同様で、作家はジェンダー<sup>3</sup>によって境遇が異なるように思われます。この展覧会は、世代や経験の異なる女性作家達とのおしゃべり(Chatting)を通してそれぞれのディテールに迫り、途切れがちな女性作家の歴史や表現を繋いでいくものとして継続しています。<sup>3</sup> 回目は釘町一恵さん、齋藤英子さん、間々田佳さんと飯沼知寿子で話していきたいと思います。

\* \* \* \* \*

## 男女それぞれに求められるもの

**飯沼** 1989年、釘町さんが武蔵野美術大学に入学された時、学生の男女比はいかがでしたか？

**釘町** 不確かですが、油絵学科で大体6対4くらいでしょうか。男性が圧倒的に多かった時代はだいぶ変わって、でもまだ男性のほうが多いという感じですね。先生も女性は少数ですが、力強く数に負けないような方が増えてきました。

**飯沼** 間々田さんは2009年に、武蔵美のデザイン科に入られたそうですね。

**間々田** 私の学年の空間演出デザイン学科は、120人中5人くらいが男の子だったかと思えます。大学院で彫刻コースに行くと男

の子の割合が多くて、6対4くらいかな。

**飯沼** 大学院進学時の男女比の変化は私も経験しました。全体的には美大で今、女子学生がすごく多いですけど、まず圧倒的に男子学生の受験者数が少ないようです。

**間々田** 高校で進路指導をしていると男子の保護者が、美術じゃ食べられないからダメって言うんですよ。でもどの大学へ行っても同じだぞ、自分の心の声に従いなさい、と私は言うんですけど。

**釘町** 周りで美術の仕事をしてる人が少ない？

**間々田** らしいです。

**齋藤** 私の時もその前も、教師の資格だけは取っておくとか、それじゃないと親が首を縦に振らなかったという話がありました。

**間々田** 当時は情報が少なく、美術で食べていく想像がつかなかったんでしょね。今だったら、仕事は何かしらあるじゃないですか。普段目に入るもので美術の人の手が入っているものって、実はたくさんありますので。

**飯沼** 齋藤さんは女子美術短期大学専攻科を80年に修了なさってますね。

**齋藤** 私、女子美のこと知らないんです。授業が終わると、半地下にある陶芸の作業場にずっと巣くってた。お昼に食堂へ行くとお化粧をした女の人がいっぱいいて、煙草をぱつとふかしてじろつと見るわけ。私達が、土を付けたようなきつたない格好してビーチサンダルでびよこびよこ歩いてるから。それで時間や場所を変えたりしてたから私、皆さんが想像する綺麗な女子美のお姉さん達のことには知らないの。いわゆる女子美を訊か

れても、分かんないって感じ。

**飯沼** 美術家育成の一方で、美術教育はある種の花嫁修行を担っていたんでしょか？

**齋藤** 新しい時代の流れで盛り込まれた言葉が「デザイン」<sup>4</sup>だった。幸せな家庭のデザインという感じのアプローチをする先生もいたし、女の先生ですら、いい花嫁修行というようなことはおっしゃってた。

**飯沼** 齋藤さんが高校を卒業する頃って、進学は当たり前でしたか？

**齋藤** 当時は高度経済成長期<sup>5</sup>で、就職には学歴が求められるようになってた。一方で、息子には教育費をかけるけど娘は息子の教育費の為に短大がいい。娘はその後花嫁修行でもして結婚すれば、温かい家庭を持つて幸せになれる。そういう、息子と娘に対する期待にまだ差がある時代かな。だから学生の頃、親にこう言われて悲しかったと訴える友達はいた。

**飯沼** さっきの話で言うと、就職先がないから息子を入れない美大になぜ娘なら入れるのか、そこも考える必要がありそうです。70年代には、女性が四大へ行くと就職できないから短大、ということもあったとか。

**間々田** なぜ四大だと就職できないんですか？

**齋藤** だから面白いの。ある友達が就職の面接で「あなたは結婚をどう考えていますか」って訊かれたんだって。「お付き合いされている方はいますか」その方と結婚されるんですか「いつ頃結婚されるつもりですか」そういうことを訊いてくる。

**間々田** あなたに関係ないし！

1. 社会学者、東京大学名誉教授。女性学、ジェンダー研究の先駆者。(1948-) 2. 女性解放思想及び運動。社会で生じる性差別を明るみにし、平等な社会を目指す。 3. 社会的・文化的に規定される男らしさ・女らしさなどの性別の差や、性別による役割。 4. 製品がその機能性をもちながら視覚的、触覚的に快適である為の設計、意匠。多くの近代デザイン運動によって近代工業の生産システムとデザイン造形とが合理的に結びついた。キャリアデザインや生活デザイン等、形態のない事柄の計画や行動指針を指す場合もある。 5. 1950年代半ばから1970年代前半の、日本の経済成長率が年平均10%を越え、急速な経済成長を遂げた時期。その背景には東京オリンピック(1964)や大阪万博(1970)による特需もある。また、労働者の生活安定への要求と企業による人材確保の需要が終身雇用制を定着させ、学歴社会を生んだ。

齋藤 別の友達には、将来男性社員のお嫁さんになるべく女性社員を採るとも聞いた。間々田 馬鹿げている。

飯沼 企業の求める女性は、男性社員を支える若いお嫁さん候補。ジェンダーですね。

間々田 多様性があつたほうが会社潰れないぞとか、そこまで考えていない。

齋藤 そういう時代じゃない。戦後復興<sup>1</sup>を旗印に、民主主義と一緒にいわゆるアメリカの豊かな家庭生活のビジョンが広まる。冷蔵庫と洗濯機があつて、犬を飼う庭のあるアットホームな生活、そのビジョンで女の人は家にいた。でも、日本では奥さんが家計をやりくりして旦那さんが働いてきたお金を握れたけど、アメリカでは旦那さんが働いてお金を牛耳っていた。

間々田 へー、アメリカの男の人は大変。

齋藤 大変っていうか：女の人の立場つて、それだからいろんなことがあつてウーマン・リヴ<sup>2</sup>が出てくるんだと思う。

間々田 確かに、考え方を変えると「男の人は大変」ではなくて「女の人は自由がない」ですね。責任を全部被せて男の人に悪いかなと思っちゃいましたけど、一瞬。

飯沼 金銭は権力ですから。だから「養つてやつている」「みたいなモラハラ<sup>3</sup>も出てくる。

間々田 めっちゃ悪い人じゃないですか。一同 (笑)。

## 弱者のまままで尊重される社会

釘町 なんていうか、ウーマン・リヴとか女

性の台頭があつた時も、底辺ではそれと逆の価値観とか文化がずっと続いてきた気がするんですよ。

齋藤 明治時代の津田梅子<sup>4</sup>とか平塚らいてう<sup>5</sup>の女性運動的なもの、そういう流れがあるところで途切れちゃう。それを女の人が繋いでいくことで違う社会が生まれる。女の人のとってだけじゃなくてね。

飯沼 そうですね。美術史でも圧倒的に男性作家が多く登場して、彼らの表現の繋がりが示されています。でも女性達の表現は番外編のようにわずかに登場する。その文脈は取り上げられず、後世の人がその繋がりにつぎ難いのが現状かなと思います。

間々田 美容美容専門学校で文化論を教えますけど、その教科書には美容美容の歴史に沿って女性の進出のことがちゃんと書いてあつて、たぶん美容師や理容師の人達は意識していると思います。女性が多い業界は教科書でもきちんと学んで、私も頑張らなくちゃという心構えになっていると思うんですけどね。

釘町 上野さんの祝辞にある、フェミニズムが「女も男のようにふるまいたいか、弱者が強者になりたいという思想」<sup>6</sup>ではないっていうのがすごい分かりやすい。「フェミニズムは弱者が弱者のまままで尊重されることを求める思想です」<sup>6</sup>と、とても柔らかかに言っているんですけど、そこに至るまでには結構な闘争があつたんじゃないかなと。そのままのありようをそれぞれが肯定しながら、許容しながら社会を作っていくのが男女問わず基本ですよ。

飯沼 敢えて最初に否定したのは、ウーマン・リヴの時のことがあるのかな。当時メディアによって、フェミニストが恐ろしい女性として流布された苦い経験があつて。

齋藤 その渦中に叔母がいたの。女性学<sup>7</sup>を学問として成り立たせる創成期に、出版関係者としていろんな女性学の人達にお会いして。日本の女性の地位改善の為にすごく戦つた。だから叔母は、ウーマン・リヴの女の人達はどうかのつて言われることをすごく嫌がってた。上野さんの文章も、そういうことを経て生まれてくるんで、すごく訴えてくる力がある。

間々田 「弱者が弱者のまま」って読むと、やっぱり強くなりたいて思っちゃいますけど。

一同 (笑)。

飯沼 どんなに強い人も強いままでではなくて、弱くなり得る。だからこそ、弱いままで尊重される社会がいつてことだと思う。

釘町 女性だけではなくて身体的、人種的、社会的と、広い範囲の弱者に当てはまりますよね。

間々田 道具によって物理的に補助するとか、精神的に鍛えるとか、私はそっちに考えが及びがちなんですけど：。弱者が弱者でなくなる社会を作るほうが考え方には近いのかな。子供の頃から強くてたくましい子になるよう育てられたので、やっぱりそれがいいことだつていう風に思っちゃってますね。でも思い出すのが、小学生の時に私は階段の踊り場から下の階に、ぴよんって飛び降りることができたんです。それで「やつてみなよ」と

1. 日本の戦後復興は、1950年勃発の朝鮮戦争による特需景気に支えられ、高度経済成長期へと続く。 2. 1960年代アメリカで起こり、世界に広まった女性解放運動。日本では田中美津(1943~)の「便所からの解放」(1970)に端を発する。 3. モラルハラスメントの略。言葉や態度などによる精神的な暴力。フランスの精神科医マリ＝フランス・イルゴイエヌ(1949~)が提唱。 4. 教育者。日本初の女子留学生の一人。日本の女子教育の先駆者であり、女子英學塾(後の津田塾大学)を創立。(1864~1929) 5. 思想家、評論家。女性解放運動の先駆者であり、女性文芸誌『青鞥』を発刊。(1886~1971) 6. 上野千鶴子「平成31年度東京大学学部入学式祝辞」東京大学2019.4.16、[https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/b\\_message31\\_03.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/b_message31_03.html) 7. 従来の男性中心主義的な学問の客観性・中立性を問い直し、女性の問題を女性自身によって研究する学問。

言って友達が怪我しちゃった。あと昔から剣道をやっていて「面と小手を付けてるから思いつきり殴って遊ぼうよ」とか。

**釘町** ジャイアンじゃない(笑)。

**間々田** もちろん自分も吹っ飛ばされたりしますけどね。でも今思うと周りの子達は嫌だっただろうな。高校の教員をやってみて、今はちゃんと繊細な子や優しい子の良さが分かります。0か100以外のことも、白か黒じゃないこともあるって分かってます。剣道みたいに勝負の世界じゃないんだ、人間界はって。

**釘町** 人間界は！面白い(笑)。

## 表現の文体

**飯沼** フェミニズムという言葉を意識したのは大学生の時で、年配の男性から「上野千鶴子っていう恐い人がいてね」と聞いていました。ある時、古い雑誌に見つけた上野さんの文章を読んでみたんです。そこに『フェミニズムは、女に「自然だと押し付けられたものを「自然」とは一体何か」と問いかける思想です』<sup>1</sup>とあって。これだ！って思ったんですよ。初個展の時、ずっと言葉にするのを避けてきたことをここで表明しなければと書いてました。その一文をステートメント<sup>2</sup>に引いて、そういう問いを掲げながら描いていくんだって…。

**斎藤** 宣言したんだ。

**飯沼** 本当に恐る恐る。この時代にフェミニズムって言うの？私、みたいな。そういう言葉

で語り合う人が周りにいなくなったから。5、6年前、ある作家さんに「飯沼さんはそういうことを話し合う人がいますか？」って訊かれたんです。「いいいです」って答えながら、ああ、いいんだと思って。それが、こういう場を作るきっかけにもなっていますね。

**斎藤** うまく言えないんだけど私、飯沼さんが一生懸命なのが分かるからこそ、楽になれないのにとすごく思った。

**飯沼** 私の制作が辛そうってこと？

**斎藤** いいえ、そうじゃなくて。文章とか発信しようとしていることが、すごく背負おうとしているように私は勝手に感じちゃって。私にできることがあれば何かやりたいと思うから。それでここにいます。

**飯沼** ……ありがたいことです。

**斎藤** 男の人の使う言葉でなく、さっきの文章のような柔らかさで発信できると、すごくいいよね。

**間々田** その、男の人の言葉ってどういう言葉ですか？ピンと来なくて。

**斎藤** 最近インターネットで、女性は感覚的、男性は理性的とかの言説にある、男性優位の視線についての文章を見つけたのね。それを間々田さんが読むと、もしかしたら納得できるのかなって思う。

**間々田** なるほど。一緒だと思ってました。一人ひとり書く人が違うんで、いろんな表現があるんだな、くらいに。

**飯沼** 一人ひとりと言っても、これまで美術で女性の書き手が取り上げられることは、多くなかったんじゃないかな。最近は増えてきたと思いますけど。美術論、美術批評、美

術史において男性の書き手が体系化してきた言葉：思考と言ってもいい。私達は男性によって作られた美術の思考を学んできたわけです。そのバイアス<sup>3</sup>を理解した上で自分の言葉を見つけていきたい。会話を通して何か新しいものが生まれてきたらいいなと思います。私だけじゃなくてこの場を共有して下さる皆さんが、今まで触れなかったことに触れたり考えたり、言葉になっていかなかったことが表れてきたらと。

**釘町** 同じことでも文体を変えるだけで、伝わり方や伝わる相手が変わりますよね。先日、本とアートがテーマのグループ展<sup>4</sup>に参加したんです。そこに、表現の文体について触れる作家さんがいて。その方はなぜか須賀敦子<sup>5</sup>。さんの文章に惹かれたそうです。その理由が分からないまま多和田葉子<sup>6</sup>。さんに辿り着いた時に、文体の構築の仕方なのだと気づいたとか。

**飯沼** 素敵な文章でしたね。

**釘町** すっと入ってくるんですよ。その方は文章の文体について言ってるんだけど、その先に自分の表現の文体について言及されると思うんですよ。その辺の突き抜け方が爽快でした。自己表現、自己実現、自己確立に終始するのではなく、そこはありつつも自分ならではの文体を作り上げていくことは、男女構わず必要だろうなって。

## 痛みの表現

**飯沼** 私は「痛い」ということがフェミニズ

1. 上野千鶴子「フェミニズムはどこまで来たかー “女の表現”をめぐって」『社会文学』第二号 1988年、日本社会文学会 2. 声明、宣言と訳され、ここでは展覧会の主旨などの解説を指す。 3. 思考や判断に特定の偏りをもたらす思い込み要因、得られる情報が偏っていることによる認識の歪み。 4. 「本とアートの対話 partII」ギャラリー榎 e・F、東京(2022) 5. 随筆家、イタリア文学者。日本文学の伊訳やイタリアでの体験を基にした文筆で知られる。(1929~1998) 6. 小説家、詩人。1987年、ドイツにて日独2ヶ国語で書かれた詩集でデビューし、日本語とドイツ語での創作を続ける。(1960~)

ム・アート<sup>1</sup>の流れで気になっていました。女性が男性に見られる存在でしかない社会の中で、自分の主体性、眼差しを取り戻そうとする時に「私の体は私のものだ」という訴えとともに身体的、性的な表現が多くなる。大学の時にそういう作品を作る人がいたけど私はそれに嫌悪感を持っていて…、痛くなって思っていました。ある時アナ・メンディエ

タ<sup>2</sup>の作品を美術館で見て、すごく衝撃を受けました。それは爆竹を取り付けた人型の造形物が点火され、燃えていく記録写真でした。ああ、女性の作品でこういう表現があるんだって思ってた。その人の仕事を調べたら、初期にはかなり痛々しい作品があったんです。身近なレイプ事件という題材やグロテスクな印象のパフォーマンス作品、これって何なんだろうって。やっとなんか表現向き合えるようになりまして。それでも自分の中のモヤモヤを説明できず、それを潜ませながら男性に分かるような絵画システムを作っていくという思考回路…。

**釘町** それ、素敵ですね。

**飯沼** 素敵？

**釘町** すごく面白い。

**飯沼** でも私はそのことが問題だったと思っただけ…。

**釘町** 飯沼さんが抱えていた矛盾のことじゃないんです。こだわる内容が消化されていないのを意識しながら、それを先の自分に託していく感覚、それが素敵だなと。ごめんさい、挟んでしまつて。続けて下さい。

**飯沼** つまり私は、その痛い表現を避けてきたんです。それは自分の中に男性優位の

視線があつて、女性性を生々しい形で示す表現に否定的な価値観を持つていたからだつて…思ふんですよね。でも私じゃない彼女は避けずにそれをやつた。その作品が痛々しいのは自分にとって大事なことで、自分が持つ痛みを表現していながら、それが作品になつていない状態…。

**釘町** 未消化なんですね。

**飯沼** ただその人の痛みの生々しさがある状態だったから。だけでもし女性作家達の表現の歴史を知っていたら、彼女はそういう作品を作る必要がなかったかもしれないと思う。その次の展開ができたかもしれないし、作品として早く洗練されたかもしれない。それができないのは、女性の表現が開かれた状態にないからなのかなって。

**釘町** まさに飯沼さんがおっしゃるような絵をこの前、女子学生の展示で見ましたね。性器とか体の部位を象徴的に表現してる。ああ、まだ未消化。でもその場に出してる。それは、女性の社会的なあり方や洗練された表現を伝える場がない故の表現…だけではないかもしれない。どう評価されようとも一つの通過点として制作していかなければ、その子が次へ行けないとしたら？もしも、紡がれてきたものを知識として伝達しつつ、敢えて段階を踏んでいく授業があるとしたら、とても実験的で面白い場でしょうね。そういう授業をする先生が今の若い世代に出てくると、次の世代ではとても面白いものが洗練されて生まれてくる。でも洗練されたらいいかって言うと、しないほうがいい場合もありますね。一概に言えない。ただ、

繰り返すことを一方の観点から否定して絶つてしまうわけにはいかない、個人的にね。**飯沼** とはいえ女性の表現が、意識的に探さないと目に入らない点も見逃せません。

**間々田** 例えばですけど、コム・デ・ギャルソンはファッションデザイナーの川久保玲<sup>3</sup>さんが起ち上げました。女性のデザイナーは多くいますし、現在のデザイナーの授業ではそんなに感じないと思いますけどね。絵画で言えばフリーダ・カーロ<sup>4</sup>とか何人かちゃんと出るようにはなつてます。まあ男性女性という分け方がそもそも違うかもしれないですね。いい作品はいい作品だし。

**飯沼** 大学で、1年生に知っている女性作家を尋ねて2人挙がればいいほう、3人挙がれば拍手と聞いたことがあります。

**間々田** 確かにあんまり作家としては教えてないかもしれないですね。作品に焦点を当てて教えているんで、自分の教え子にそういう質問をしたら出てこないかもしれないです。…融合させていけばいいんじゃないですかね。飯沼さんがおっしゃる男性が紡いできた美術史に、私達がやつていっていることとか抜け落ちちゃつていっている部分を融合させていって、皆が分かる美術史にする。それが一番ファンを増やすし、需要を増やしますよね。

**釘町** 私もそう思う。ファンを増やすと思

## 原石を磨く指導者

**斎藤** 私は、小学校の図工の先生の授業を

1. 男性中心主義の美術史、美術界及び社会を問いかける美術。1960~1980年代に欧米で隆盛。 2. キューバにルーツを持つアメリカの美術作家。自身の身体によるパフォーマンスアートや自然を直接の制作素材とするアースワークで知られる。(1948~1985) 3. ファッションデザイナー。ファッションブランド「コム・デ・ギャルソン」を設立。服の既成概念に挑み続け、ファッションにおけるジェンダーを攪乱するデザインでも知られる。(1942~) 4. メキシコの画家、民族芸術の第一人者。多くの自画像において自身の性、身体、経験にある痛みを表現した。(1907~1954)

体現したいと思つて進学したの。今思えばそれは小学生版パウハウス<sup>1</sup>だった。生活者としてどういう目を持ったらいとか、小学生なりにいろんな角度から美術を捉えるアプローチをしてくれた先生だった。一番覚えてるのは東京大空襲<sup>2</sup>の経験談。焼夷弾がいっぱい落ちて火災旋風が起きる様子を、赤いチョークがもうバンバン飛ぶような形で黒板に描かれるのね。先生が目にした地獄絵図を。衝撃だったんだけど、そこに実際いた人の情熱たるやすごく「君達がもしそこに立った時は」とか、「こういうことが起きる世の中に君達がしない為に」とか、いろんな角度でその話をされるから考えさせられる。知識や情報じゃなくてメタの知だよ。そんな風に、その人に起きてることと作品、世の中に起きてることの繋がりを助言してくれる人が傍にいたら、すつごくありがたいよね。

**釘町** そうですね、上野さんの祝辞にもあったメタ知識<sup>3</sup>。「知を生み出すための知を身に付け」ることで現代を生き抜くサバイバーになる。そういう美術教育がなされると、女性の問題にも自然と目のいく子が増えていくと思ふんですね。

**間々田** さつき飯沼さんがおっしゃったように、その：女性作家を知らないっていうのは高校教員にも原因がありますよね。

**飯沼** それは教員の問題以前に、やっぱり社会の問題だと思ふんですよ。

**間々田** でもいい作品って、もつと私もちゃんと勉強していれば知っているわけじゃないですか。勉強不足なのかなって思いました。作家としても与えられているだけではだめ

ですよ。自分で開拓して探さないで。

**釘町** その為のメタ知識ですよ。ただ自分からこだわりがないと動かないから。

**飯沼** 自分で求めた時がやり時ですよ。

**間々田** なるほど。思い立ったが吉日！

**釘町** それそれ(笑)。

**飯沼** 間々田さんは割に、強さやたくましさ志向してきたようですが、96年の小学校入学で既に男女混合名簿だったそうですね。

**間々田** 誕生日順だったんで前は女の子で後ろは男の子だったような。幼稚園も前の男の子を蹴つて遊んでたから混合でしたよ。

**飯沼** 85年の世界女性会議<sup>4</sup>で、幼稚園から高校までで男女別の名簿を使っているのは18カ国中、日本とインドだけだったそうですね。日本では99年にやつと混合名簿の推奨を始めました。その点でも間々田さんは早いうちからジェンダー・ニュートラル<sup>5</sup>に近い教育を受けてきたと思ふんですけど、社会に出た時にギャップって感じませんでした？

**間々田** うーん、割と鈍感なんですよ。女性の人が、若い女の子を気にかける一方で、その容姿や能力を貶める発言をしたのにびっくりしたことはありません。女の人から聞くことのほうが多いかもしれないですね。

**釘町** 女性のミソジニー<sup>6</sup>。っていうのもあるのかな。

**飯沼** ミソジニーって、女性を男性の連帯から排除して対象化することなんですよ。女性嫌悪って訳されますけど。社会の中で女性がその意識を内面化することが、女性同士の分断を生んでいる。私が女性性の

生々しく表出した作品に嫌悪感を覚えたのもそれだろうなど、今は思うわけですけど。

**斎藤** 社会的にも結構強いかもしれない。

**飯沼** さつき釘町さんが未消化の作品について、通過点として必要とおっしゃって、本当にそうだと思います。ジュディ・シカゴ<sup>7</sup>は美大で女性だけのプログラムを作つて、学生達が表現したいことを探らせたんです。でも、主体性を取り戻して自分の制作をしてきた学生達が、プログラムの一歩外に出たら酷評に合うわけなんです。それが未成熟だとしても原石であることを認めて、その制作の展開を助言する力が、他の指導者に足りなかつたんですよ。その状況には既視感がある。最近、釘町さんがそういう学生の表現をご覧になったそうですね、現在の指導状況が気になりますね。

**釘町** 敢えてやらせているんじゃないかと思ひます。外に出して晒す。色々言われる。それで自分で考えろつてことじゃないかな。

**間々田** 原石という言葉を使えば、磨かれていますよね。外に出すことで。

**釘町** 残る子なら克服していくし、自分の眼もちゃんと育てていくと思う。

**飯沼** それは残る子であるのと同時に残す周りであることの両方が大事ですよ。

**間々田** はあー。

**釘町** どうした!?

**間々田** お話を聞いてみると、あの時あすれば良かった、もつと一緒に探求してあげれば良かったと思う教え子がいて。その子が飯沼さんのおっしゃる、原石みたいな作品を作っていたんです。デリケートな内容だか

1. 1919年、ワイマール共和国に設立された美術学校(1933年閉鎖)。全ての芸術の統合を目指す美術教育システムを確立。大量生産中心の工業化社会と芸術のあり方など、多分野に影響を与える。 2. 1945年3月10日夜、アメリカが東京下町を標的に行つた無差別爆撃。死者数は10万人以上。 3. 様々な活動領域に應用可能な高次の知識。知識を生産する知識。 4. 女性の地位向上を目指して開かれる国際連合主催の世界会議。1975年以來、5~10年ごとに開催。1985年はナイロビで開催(第3回)。 5. 性やジェンダーに縛られない言葉や思考、社会制度。 6. 女性嫌悪。アメリカの社会学者イヴ・セジウィック(1950~)はホモソーシャル(男同士の絆)とホモフォビア(同性愛恐怖)を含めた三つの概念により、異性愛が男同士の絆の為に自然化された制度であると喝破した。 7. アメリカの美術家でフェミニズム・アート運動の中心的人物。(1939~)

らって逃げないで、もっと掘り下げてあげれば良かったな。対話していく中で磨かれたりするじゃないですか、自分の作品もそうですけど。なのに私、言葉が足りないっていうか対応が足りなかったなって。色々アドバイスはしたんですけど、通過点とは思っていなくて一緒に悩んじゃったんで。もうちょっと引いて、教員としてこう…。

**釘町** でもその子がそれを自覚しているんだとしたら、きつと大事に守つてると思いますが。降つて湧いたものじゃなくて、たぶん幼少の頃から繋がつてはるはずだから。

## 連続と積層

**斎藤** 間々田さんの作品の資料の中で赤い組紐が結んである作品を見た時、この紐は何だろうって思ったの。間々田さんにとって。

**間々田** 色に関しては鉄を溶かしたり、熱延<sup>1</sup>する時の色からきています。鉄って元は自然物ですけど人工物なので、木や石よりも人間に近い。作者と作品と見る人を結びつけてくれる、そういう素材として鉄をよく使っています。紐は形態を結びつける意味合いと、そのポイントを強く意識させたいというのがあります。

**飯沼** 溶接じゃなくて結ぶ。

**間々田** そうですね。組んであるというか。積層させるじゃないですけど、こういう部分を見て欲しかった。

**釘町** 紐の部分を鉄で作られる方もいるじゃないですか？でも紐なんですよね？

**間々田** 鉄より紐のほうがより人間に近いというか。鉄も、自分で削つたりしていると柔らかいとは思ってんですけど。より、見る人と私の表現を繋げてくれますし。あんまり素材に頼りきつちゃいけないというのはありますけど。

**飯沼** 積層と言えば昨年末に観た小品の、多彩な色紙の重なる断面が目を引きました。鉄の作品は、その独特な色味が作品の要素になることが多いと思うんです。そうでなくっていわゆる赤とか黄色とか明快な色を扱うのは、やっぱり意識的なことですか？

**間々田** そうですね。自分の作品がちょっとぶつきら棒過ぎるなと思って。表現には余白があつたほうがいいと思うんです。ですけど言わなさ過ぎると却って、色々考えたり思ったりする楽しみがないなと。もうちょっと作品を自立させたい感じ…。鉄だけだと、そのかっこいい素材に頼り過ぎのようで、小品では色々な素材を扱っています。プラスチックとか、鉄以外の金属を触つてみたりして。でもやっぱり鉄かな。削っている時に手にしつくりくるんです。ステンレスやアルミは引つ掛かりが多くて、相性が悪いって感じなんですけど。鉄は粘りがちょうどいいんですよね。

**釘町** 石とかじゃないんですね。

**間々田** 自然物だと思っちゃう。石は石で、木は木じゃないかって。石彫や木彫の人に怒られそうですけど(笑)。

**飯沼** そう考えると確かに、鉄は自然と人間の間中間って感じがします。間々田さんが鉄を使われるのには、育つた環境の影響もあるそうですね。製鉄所の風景？

**間々田** 君津市なんですけど、稽古から帰る時も大学から夜遅く帰る時も、製鉄所の溶鉱炉の明かりが見える。それって元気が出るんですよ。そういうイメージもあります。

**釘町** 溶鉱炉って休みなくずっと動いているんですよ。

**間々田** 人間の作つたものって魅力がありますね。色々考えられていたり、思いが入っていたりする。重ねていくのは日本よりもヨーロッパの文化圏のような感じがしますけど。向こうは、下に古い建物があつて積み重ねていくじゃないですか。そのほうが自分の精神構造には今のところ合っているかなと。

**飯沼** この間の作品は積層っていう感じがしましたけど、それまでは連続っていう印象を持つていました。

**間々田** 確かに。連続は剣道からきてるんだと思います。毎日素振りをしてるんですけど、毎日違うんですよ。

**飯沼** じゃあ、そのことと積層はちょっと違うのかしら？連続っていうことが、ああして重なつたのかなと思つたんですけど。

**間々田** そうかもしれないですね、言われてみると。同じことの繰り返しの中で洗練されてくることは身に付いています。でも、違うこともやってみないと新しい自分に会えないと思つて。

## 実験と確認の道のり

**飯沼** 斎藤さんは、陶からインスタレーション

1. 「熱間圧延」の略。加熱して柔らかくした金属を回転するロールで引き延ばし、板状・棒状にすること。

ン<sup>1</sup>へと表現が変化していらつしやいました。日々の作業としては作品になる素材を作っていくことになるんでしょうか？

**齋藤** 陶器だったら、例えば同じ湯呑みの形をいっぱい挽いて並べて、様子を見て削る。インスタレーションでは最近、結ぶっていう行為に執着してる。間々田さんの素振りじゃないけど、今日の結びと昨日の結びは違う。金網に蛍光ピンクのテープを結んで解き、結んでは解き。手を動かす行為に魅力を感じるんだと思う。

**飯沼** そういう齋藤さんの制作は、先ほどのお話にあった小学生版バウハウスから繋がっているんでしょうか。

**齋藤** 後から気が付くんですけどね。鉛筆を削ることや点と点を結ぶことの面白さ、ちゃんと線が引けなかったり歪んだりっていう体験。それが私の中でずっと面白い感覚として残って、今のインスタレーションに繋がっている気がする。空間を見る時もどこか俯瞰な感じで。

**飯沼** 行為が重要なんでしょうか？

**齋藤** たぶん。実験とか、自分でやってみるのが大好き。あと、ものを壊したがる。中がどうなってるのか見たがる。

**間々田** 分かります。いい車のボンネットを開けて見ると整然としていたり、リズムがあつたりして美しいんですよ。

**齋藤** 基板とか設計図を見るのが好きだったり。そういうのが元になって、空間が出てきます。

**釘町** 面白い。空間観が違う。アプローチが違うので当たり前なんじゃないかな。

**齋藤** 光に関しては、子どもの頃から目が悪くて眼鏡では補正しきれなかったから、自分のいる状況によって、見える世界が全然変わってしまうのね。それもあつてか、光に対して敏感に反応する自分がいることは確かだなんて思う。

**飯沼** そういえば初個展のインスタレーションも、光がテーマだったそうですね。紙粘土のオブジェとライトを組み合わせて光が透過するっていう。それに何年か前の、壁などに投影された映像と透明なボックスの展示では、映像自体が光だという印象がありました。

**齋藤** ボックスはプラ板で作ってるのね。実験で、穴を開けたプラ板<sup>2</sup>にいろんな形状の針金を挿して光を通したら、興味深い反射が生まれた。光と影によって全く違う世界観が出てくる。その光の感覚がpoint<sup>3</sup>っていう題の作品になった。結局、天変地異のいろんなことに、自分達がどう反応していくかを含めてpoint<sup>3</sup>なんだけ。

**飯沼** それは東日本大震災のことも含めて？

**齋藤** 震災も、原発のことも含んでいる。私達が使っちゃって享受して、処理できないものを後に残していく。そういうことも含めてpoint<sup>3</sup>。

**飯沼** 最近の作品は、金網と蛍光ピンクのテープがメインにありますね。

**齋藤** 震災後に何度か東北に行ってます。生活してる人達と、こっちからお邪魔する者の価値観の相違、生活が見えてくるところに興味がある。悲惨な状況よりも、その人達がいろんな工夫をして、生活が少しで

も戻ってきた状況の時にお邪魔させてもらいたいと思つて行つてたの。ある時、常磐線の不通過区間<sup>3</sup>を走る代行バスから、福島風景に「除染中」<sup>3</sup>って書かれた蛍光ピンクのぼり旗が揺れてるのを見た。思い返すと他にも、危ない所の目印に付けられた蛍光ピンクのマーキングテープを見てるんだよね。それが目立つから注意喚起に使ってる。

**間々田** それを注意喚起のまま作品に落とし込んだんですか？それとも、注意喚起の為に設置されたピンクが、齋藤さんには何か別の意味を持つたんでしょうか？

**齋藤** すごく不謹慎なんだけど、ピンクが動くつてすぐ目が行くんだよね。自分の心が掴まれてしまった。去年の個展<sup>4</sup>の時、金網と蛍光ピンクのテープの作品で最終的にやりたかったのは田植えみたいなこと。それが再生なのか、汚染された土についてアラートを発しようとしているのか……。ただ、警戒を喚起する蛍光ピンクにはこだわってしまう。再生にはまだ、辿りつけてないです。

**飯沼** 結局制作するって、地道な一步一步なんじゃないかな。遠い先を意識しながら目の前の道のりを着実に歩んでいくのかなって。

**齋藤** 確認しながら。実験しながら。

**飯沼** 今は、アラートを発するピンクを使った作品、その地点つてことでしょうか？

**齋藤** 自分がそこにどう接していこうとしているのか。あちらとこちらの境目があるのを、自分で確認する為の蛍光ピンク。

**間々田** 実感して本当に大切ですよ。実際に見て、聞いてみないと分からない。

**飯沼** 視覚的なものだけでなく、その場の

1. 現代美術の手法の一つ。鑑賞者に、場所や空間全体を作品として体験させる。 2. 模型用の素材に用いるプラスチックの板。 3. 常磐線日暮里～岩沼間343.7kmのうち、震災と原発事故の影響によって広野～原ノ町間と、相馬～亘理間は1年以上にわたって不通となった。その後、ルートの変更も取り入れながら徐々に復旧が進み、2020年に全線開通。 4. 「齋藤英子展」藍画廊、東京(2021)

音や匂いも含めてなんですよ。そういうものを取り込んで視覚的な作品にしていくのが美術ってことなのだと思いますけど。

**斎藤** 図工の先生が赤いチョークをバンバン飛ばしながら描いてたその空間が誘ってられる、妄想させてくれること。それを私はやっていきたいんだろうな。五感を研ぎ澄ますことで得るものがあることを伝えたいんだと思う。妄想族は面白いよ、みたいな。

## 時代を意識した制作

**釘町** 飯沼さんの作品に描かれてあるのはお手洗いの洗面所ってことでしたね。

**飯沼** 元々、教室やファミレスのように、社会に整然と並んで管理された空間を選んできて、トイレはその一つでした。

**釘町** じゃあ洗面所も個人的な家ではなくて公衆の場なんですね。飯沼さんの、とても内的なものを表現してるんじゃないかと深読みをしますね。水と手を洗う場所、しかも公衆の場っていうのは。

**飯沼** 手を洗う洗面台よりも、トイレの個室が並んでいる状態のほうがメインです。あの：「女は公衆便所」<sup>1</sup>、っていう言い回しがあるんですね。

**釘町** 以前おっしゃってましたね。その流れですか？いわゆる排泄する場所でしょ。そして手を洗う場所がある。お話しして下さったことと繋がって思うものがありました。

**飯沼** 上野さんの祝辞でも挙げられた、東大の男子学生による私大の女子学生の集団

凌辱事件<sup>2</sup>、他にも似たような構造の集団レイプ事件の報道が時折ありました。私は以前から日本軍「慰安婦」問題<sup>3</sup>について気になつていて、それで戦時中の「公衆便所」という隠語を知ったんです。大学闘争<sup>4</sup>でも同じ言葉が使われていたと知った時もショックを受けましたんですけど、それらのことと今リアルタイムに社会で起きていることが繋がっていることなんだなと…。

**釘町** …：こうやってお話を聞いてみると作品に対しての理解というのが深まりますね。そこまでは読んでいなかった。

**飯沼** それはメッセージではないから。だけど、学生の頃に当たり障りない言葉で自分の作品を説明してきたのと同じことを、…まだやってるってことでもある。

**釘町** いや、大事なテーマなんだと思います。それがきつと。

**斎藤** いったんか飯沼さんの作品にトイレを見つけて、すぐ頭の中で友達が昔かけてたカセットテープが流れちゃったのね。

**飯沼** 歌詞に「女は便所、男の便所」<sup>5</sup>、とある歌でしたね。

**斎藤** 連呼するの。彼女が酔っ払うとそれをかけるわけだよ。彼女の育ってきたいろんな環境からそういうことが出てくるんだな—と聴いてた。その彼女よりも十歳くらい若いのかなって思って作品を観てたから、改めてお会いした時に飯沼さんがそんなに若かったんだってびっくりした。

**飯沼** 表現は新しくありますが(笑)。でも時代に則していれば、新しい表現のはずだとも思うんですよ。以前釘町さんが、時代

を意識した制作の必要性についておっしゃってましたね。今だったらコロナの状況があつて、という。

**釘町** そうね…。今の時代、特に人々が疲弊してたり分断されてたり…固くなつてしまつて。まだ以前のようにギャラリィに来られない方がたくさんいらっしゃる。そういう方に向けてSNSでしつこいくらいお知らせする。こんな風にやってます、来られなくてもいいです、歩み続けていますって。一方で、久しぶりに来て下さった方に…：とってもしんどかったんだなっていう様子の方が多いいんですよ。日常レベルでは普通でも、しゃべるうちにその異変を感じる。ここをちゃんと意識して仕事はすべきだなっていうのがある。

**飯沼** 今、インターネットで画像がいくらでも見られますよね。でも作品って画像じゃないとずっと思っていて。たとえ絵のように、平面と呼ばれるものでもやっぱり三次元的なものなんですよね。だからただ正面から見るだけではなくて、歩みながら近寄りたり離れたり、触れるようにして見るものだって思うんです。コロナでその行為が難しくなつていくとしても、やっぱりそれが基本で。そういう鑑賞に耐えられる作品を作りたい。

**釘町** そうですね。やっぱり皮膚感覚で、視覚以外にも総動員して見るっていうのが大事なんじゃないかと思う。そこに体現されているものを吸収するのは眼だけではないと。また、そのことをテーマにして作品を作りたいって思う。

1. 「便所」は男性の性的対象としての女性を指す隠語。戦時中の慰安所では狭い空間に慰安婦達を配し、兵士達が列をなして短時間で性行為に及んだことで使われ、大学闘争では性体験の多い女性と侮蔑しつつ革命戦士にとって性的対象化可能な女性を指した。 2. 2016年、東京大学の誕生日研究会のサークルメンバー 5人によって起こされた強制わいせつ事件。同年には慶應義塾大学広告学研究会レイプ事件や千葉大学医学部レイプ事件も発覚した。 3. 日中戦争や太平洋戦争において、日本や植民地、占領地の多くの女性達が兵士の性の相手を強制されて人権侵害を受けた問題。 4. 学生運動による学生と大学の対立状態。日本では特に1968年~1970年の全共闘運動によるものを指し、運営改善を訴える学生側が大学構内をバリケード封鎖するなどした。 5. 小林万里子「便所のブルース」『ファースト・アルバム』1981年、フォーライフ・レコード。

## 地盤をもつ新しい表現

**飯沼** 釘町さんの作品は、日本の洋画の流れを汲んでいるなあって思うことがあって。塗り込めていく感じとか絵の具の質感とか。洋画と言うと古臭いようですけど、新しさがある。それは色彩の為だと思っんです。あの鮮やかさ！

**釘町** 私が絵を作るにあたって、油絵の具のアカデミズムはもうあまり関係ないんですね。むしろ別の要素が自分の中にどんどん入っているの、その延長で作っている意図はないかと。

**飯沼** 最近流行りの絵に、絵の具の表情が薄っぺらな、もしくはすごく盛り上がっているものがあるじゃないですか。

**釘町** はいはい。盛り上がってる人いる。

**間々田** 地が見えるほど透き通っている人もいますよね。

**飯沼** どちらも画像的な感じがするんですよ。それは現代のかもしれないけど。そういうものと全然違って、いい意味で日本の洋画の歴史を吸収してきたところに釘町さん独自の表現が立ち上がる感じがして、それがすごく面白い。新しいんだけど、地盤がある、根っこがある。その思想的なこととか、絵の具への向き合い方とか。

**釘町** 先ほどの言葉を借りるなら、自分の表現の文体、それに対してストイックですね。

**飯沼** それはすごく思います。油絵もそうだし、ドローイング<sup>1</sup>での素材の使い方がすごく魅力的なんですよね。だからもう、見るとため息。

**釘町** 恐れ入ります。

**飯沼** それこそ、釘町さんの文体だなんて思う。

**齋藤** 釘町さんは粘土でアクセサリーみたいなのも作ってますね。

**釘町** 学生時代から、描くためのモチーフ<sup>2</sup>を自分で作ったりしてました。ドローイング<sup>2</sup>をして、それを基に描くのと同じ感覚です。それが仕上げまで残ってなくてもいい。それを描き入れたことが、ただ自分にとって必要なことで。あと、色は自分にとって魅力ですよ、ちょっとしたお茶タイムに器や敷物などの色合わせをして、SNSに写真を上げたりしてます。

**飯沼** 色合わせっていうのは？

**釘町** デッサン<sup>3</sup>の時とか、モチーフを構成するじゃないですか。それをスマホの画面の中で構成するっていうお遊びです。

**間々田** スケッチ<sup>4</sup>みたいな感じですね。

**釘町** そんな感じ。着物を着る時にも同じようにします。

**齋藤** 着物で色合わせて言葉を使いますね。着物と半襟の襟元の色の合わせ方、顔写り、着物の柄と肌の色との間にどういう色を合わせるか。

**釘町** いわゆる古典ですよ。だけど私の場合、例えば大島紬をただ着るとおばあちゃんになっちゃうからショッキングピンクを合わせてみよう、とか。お遊びなんです。ストイック過ぎても自分で面白くなくなってしまうので。

**間々田** 釘町さん、着物を着られるんですね。私も時々着るんですよ。着物の合わせを

考えていると、脳が刺激されますよね。

**釘町** 楽しいです。最近、合わせが自分の作品に近くなって気が付きました。着物は祖母や叔母から貰ったものなんですけど、面白いですよ。

**間々田** もっと私生活を利用していかないとだめなんですね。

**釘町** 楽しんでるだけ。

**齋藤** 楽しまないと生まれないもんね。

## 抽象か具象か

**飯沼** 釘町さんは抽象的な油彩と、具象的なドローイング<sup>5</sup>を並行してなさってましたけど、それが少しずつ変わってきていますか？

**釘町** 人の形は失なわれていくものなので、人の形を取らずに人を表現したい。それが油絵の表現の根幹にずっとあります。ところが抽象を続けると反動で、形を実際に見て描きたい欲望が出てくるんです。それで、ドローイング<sup>5</sup>ではモデルさんなどを見て描いてました。発表はドローイング<sup>5</sup>で具象的な表現、油彩で抽象的な表現と分けて書いて。例えば具象的な絵が評価されない時代を経っていたので、それが縛りになっていたのかもしれないですね。何かズレを感じながら描いていた。抽象か具象か、どっちならいいんだろう？どっちかである必要があるんだろうか？その自分の心許なさ……。表現が何かに属しないと評価されないんじゃないかという、若い故の葛藤があったんだと思います。だけど、ひたすらドローイング<sup>5</sup>することで

1. 線を引く(draw)行為に重きを置く線画のこと。構築的な絵画に対し、イメージや感情などを引き出す(draw)即興的または習作的なものを指す場合もある。 2. 絵画・彫刻などの芸術作品で、表現の動機・きっかけとなった中心的な思想・思い、または題材。 3. ペンや木炭、鉛筆などによる習作。無彩色の即興画を意味する場合もあるが、日本では美術教育の基礎訓練として、対象を見たまま正確に描くアカデミックな価値観が色濃く残っている。 4. 人物や風景などを大まかに描写すること。写生、素描、ドローイングともいう。

方の表現が行き来して、だいぶ壁がなくなってきた。そのカテゴライズがようやく無意味になったわけです。

**齋藤** カテゴライズ大っ嫌い。

**釘町** そうですね。ただ、嫌いでもそれはスパツと捨てられるものでもなく、逆に自分の作品の土台として必要だったりもするんですよ。その兼ね合いが、最近自由になっ

てきました。

**飯沼** その葛藤は、きっと私が学生の頃に抱えていたものと似ているんだろうなと。

**釘町** 違うかも知れないけど似てると思います。

**飯沼** 釘町さんが作って描いていたものは抽象的な形なんですか？

**釘町** 小中学生の時から、体温で温めて柔らかくなる粘土をいつも小さい缶に入れて持ち歩いてました。病院とか駅の待ち時間に、パカッと開けて出して、何かできてはまたしまつて。有機的で人体に近い形ですね。箱を開けた時に壊してまた始めて。

**飯沼** よく練り消しゴムでそういうことしましたね。

**齋藤** 練り消しをちぎって広がっていく時の切れ方、私はあれが楽しくて。

**釘町** 餃子作る時とかね。料理も割と道具より手でやることが多いかも。手で混ぜたり捏ねたり、そのほうが心地いい。

**間々田** さっきの話じゃないけど実感がありますよね。作っているっていう。

**釘町** 楽しいですよ。料理は、自分や家族の為だけなので大したものじゃないけど。でも、アートはどこにもあって繋がっている。

アートを行っていくことが生きていくことか  
なって。様々な別れあり、出会いありです  
け  
ど。

**齋藤** 最近、母の寝顔を見てて大丈夫か？  
と思う。それで鼻先にティッシュを当ててみて

「あ、息してる」って。

**釘町** その動くことがインスタレーション  
なんでしょうね。命の表れみたいな。

\* \* \* \* \*

**齋藤** 面白い時間でしたね。

**釘町** 本当にね、何とも言えない。聞きたい  
ことも聞けました。

**間々田** ありがとうございます。

**齋藤** 再生まで行けるかな。分かんないな。  
**飯沼** 慌てなくても、その道のりを一つずつ  
踏んでいくということでしょうから。

**齋藤** 確認しながらね。

**釘町** 道のり自体が再生かも知れないし、  
表現なのかもしれない。

**飯沼** 道のりなくして再生はなし、ですよ  
ね。

**齋藤** ないですね。  
一同 (笑)。

ChatterboxIII—変化を伴い持続する4人—  
会期 2022年8月29日～9月3日  
会場 ギャラリー檜

企画・制作 Chatterbox実行委員会  
編集 飯沼知寿子  
印刷・製本 株式会社グラフィック  
発行 2022年8月

※この事業はWAN基金から助成を受けています



## 飯沼 知寿子

# B

1984 神奈川県生まれ  
2008 第23回ホルベイン・スカラシップ奨学生  
2010 東京造形大学大学院 造形研究科 修了  
2017 第53回神奈川県美術展 厚木市文化振興財団賞 受賞  
神奈川県在住・活動

### 主な個展

2021 ChatterboxII-交錯する4人の場面-  
飯沼知寿子「点に在す」ギャラリー檜F、東京  
2020 Chatterbox-4人の語りとそれぞれの表現-  
飯沼知寿子“Blind Spot”ギャラリー檜B、東京  
トキ・アートスペース企画シリーズ“Realization”vol.1  
“Unneutral Square”トキ・アートスペース、東京  
2018 「明るさについて」Gallery & Café DODO、東京  
2017 トキ・アートスペース企画シリーズ“Solid Will”vol.6  
「反復の息づかい」トキ・アートスペース、東京  
2016 トキ・アートスペース企画シリーズ“Real/Material” vol.7  
“Field”トキ・アートスペース、東京  
2015 「言葉にならない」ギャラリー檜e・F、東京  
2014 「透く」ギャラリー檜B・C、東京  
2013 トキ・アートスペース企画シリーズ“Critical Painting”vol.2  
「絵画という祈り」トキ・アートスペース、東京  
2010 「飯沼知寿子展」トキ・アートスペース、東京

### 主なグループ展

2021 「オリンピック終息宣言展2021」  
神楽坂セッションハウス、東京  
2019 「遊・桜ヶ丘 現在進行形 野外展2019」  
ゆう桜ヶ丘ギャラリー、東京  
2014 「CONSTELLATION 2014-星座的の布置展」  
上野の森美術館、東京

## 齋藤 英子

# C

東京都生まれ  
1979 女子美術短期大学造形専攻生活デザイン教室 卒業  
1980 女子美術短期大学専攻科造形専攻生活デザイン 修了  
1980~'81 女子美術短期大学造形専攻生活デザイン研究室  
副手勤務  
1981~'83 茨城県笠間市 陶芸家 伊藤東彦師に学ぶ

### 個展

2021 藍画廊、東京  
2020 藍画廊、東京  
2016 トキ・アートスペース、東京  
2015 GALERIE SOL、東京  
2014 トキ・アートスペース、東京  
2013 ギャラリーなつかC-View、東京  
2012 土日画廊、東京  
2011 神山町 旧梅里/空家、徳島  
2010 ギャラリーなつか、東京  
ギャラリーなつかcross、東京  
2009 ギャラリーなつか、東京  
2008 ギャラリー21+葉、東京  
2007 ギャラリーなつかb.p、東京  
2006 トキ・アートスペース、東京  
2005 ギャラリー21+葉、東京  
1999 「Blue Moon -vol.2」ギャラリー21+葉ANNEX、東京  
1998 「∞・時空 よくばりアンテナピッピー」小野画廊、東京

### その他

2018 「CONSTELLATION 2018」練馬区立美術館、東京  
2015 「遊・桜ヶ丘 現在進行形 野外展2015」  
桜ヶ丘コミュニティーセンター、東京  
2014 「除夜舞37周年」キッド・アイラック・アート・ホール、東京

## 釘町 一恵

# e

1970 東京都生まれ  
1993 武蔵野美術大学造形学部油絵学科 卒業

### 個展

2022 「Soul on the dish / Aperitif-失われた花」  
Cafe LOFAH、東京  
2021 「Soul on the dish / たまゆらの皿」Cafe LOFAH、東京  
2020 「Aura 2020-無常と豊饒」ギャラリーなつか、東京  
2019 「Winter Gift-今夜の秘密」おへそカフェ、東京  
2018 「Aura 2018-倍音(ともなり)する魂」ギャラリーなつか、東京  
2009 「画廊からの発言 新世代への視点2009」なびす画廊、東京  
2004 なびす画廊、東京('08, '10, '12, '14~'16)

### 主なグループ展

2022 「Women2022@Shinjuku」ギャラリー絵夢、東京  
「美術と官能」ギャラリーSIACCA、東京  
「本とアートの対話 partII」ギャラリー檜e・F、東京  
2021 「Cross View Arts Selection」Cross View Arts、東京  
「Drawing Show」ギャラリー檜B・C、東京  
「大気と萌芽」ギャラリーなつか、東京  
2019 「そこからの景色」ギャラリーなつか、東京  
2017 「他者の現われ」ギャラリー檜B・C、東京  
「なびす画廊最後の十日」なびす画廊、東京  
2016 「八壁展」ギャラリー檜B・C、東京('20)  
2014 「第3回緋水 Festival(仮)」  
都立総合芸術高校展示ホール、東京  
“Zeroart-Japanese Contemporary Art”  
hpgrp GALLERY NEW YORK, N.Y.  
2013 「interactive 2013」ギャラリー檜B・C、東京  
「お正月展」なびす画廊、東京  
2012 「interactive -YOUTH-」ギャラリー檜plus、東京

## 間々田 佳

# F

1989 千葉県生まれ  
2013 武蔵野美術大学造形学部 卒業  
2015 武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程 修了

### 個展

2020 「〔時間〕×〔空間〕⇒間」ギャラリー檜、東京  
2016 「間々田佳展」ギャラリー檜、東京

### 主なグループ展

2022 「鉄展」ギャラリーKINGYO、東京  
2021 「interactive 2021」ギャラリー檜、東京  
2019 「晴れやかな諦念」ギャラリー檜、東京  
2018 「自由を生む中庸」ギャラリー檜、東京  
2017 「開かれた孤独」ギャラリー檜、東京  
「草原展 立体の部」ギャラリーKINGYO、東京('18, '19)  
「1000枚ドローイング展」ギャラリーKINGYO、東京('19)  
2016 「第5回ダービー展」ギャラリーKINGYO、東京  
「interactive -YOUTH-」ギャラリー檜、東京('17~'19, '21)  
2015 「東京五美術大学連合制作展」国立新美術館、東京  
2013 「小平アートサイト'13」東京小平市  
「アートプログラム青梅 4大学学生展「蓋はなくなった」」  
東京青梅市